

会 議 名	令和7年度(2025年度) 第3回八王子市食育推進会議
日 時	令和7年8月28日(木) 14時30分～16時00分
場 所	八王子市保健所4階 401会議室
出席者氏名	委 員 葛西 真弓、加藤 直樹、野下 清子、勝田 芳子、岡部 貴代、岩瀬 政子、小池 さとみ、 内藤 里美、浦野 真沙子、田川 富美子、町田 淳一、三宅 久美
	事 務 局 田中保健所長、志村健康づくり推進課長、仲宗根主査、萩原主任、上地主事
欠 席 者 氏 名	松本 賢一、峰尾 幸代、松久保 雅和、篠原 由美子
報 告	ワークショップの検討結果と展望について
公開・非公開の別	公開
非 公 開 理 由	
傍 聴 人 の 数	なし
配 付 資 料 名	次第 【資料1】 ワークショップの概要について 【資料2】 第1回・2回ワークショップ 結果報告 【資料3】 第2回ワークショップ 結果報告書 ご意見シート

【会議の内容】

《開会》

発言者	内容
健康づくり推進課長	定刻となりましたので、ただいまより第3回の八王子市食育推進会議及び計画策定に係る第3回ワークショップを開催します。本日はお忙しい中ご参加をいただき、誠にありがとうございます。本推進会議は設置要綱にもございますように、八王子市における食育に関する取り組みを総合的な見地から意見交換を行う場としております。また、食育推進会議は原則公開となっていることから、会議録作成のため録音をさせていただきます。また、計画策定の過程の記録として、本日は写真撮影を行いますので、あらかじめご了承ください。 なお議事録については、議事録案を作成し、皆様に内容の確認を行った後、本市のホームページで公開します。議事録における皆様の発言については、これまでと同様に構成員の皆様の個人名は記載せず、「構成員」と表記させていただきます。 本日の傍聴人はいないのでこのまま進行します。 それでは、会議の開催に先立ち、保健所長の田中よりご挨拶をさせていただきます。
座長	八王子市保健所長の田中でございます。 皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。 本日は、これまで2回にわたって実施してまいりましたワークショップの検討結果について、それぞれのグループからご報告をしていただきます。ワークショップでは基本計画の実現に向け

	た具体的な取組についてテーマ別に三つのグループに分かれて議論を重ねてまいりました。ワークショップにご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。それぞれのグループでの検討内容を共有し、皆様と共に総合的な視点から意見交換を行うことで、今後の計画策定に向けた参考とさせていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
健康づくり推進課長	ここから、八王子市食育推進会議設置要綱、第5条により、会議の進行は保健所長にお願いします。
座長	まず、ワークショップの概要について事務局からお伝えします。その後、1グループから順に第1回、第2回のワークショップの結果について、計画策定支援の業務を委託している株式会社地域計画連合、更にワークショップ参加者から報告をしていただきます。
事務局	それでは、資料1「第4期食育推進計画策定に係るワークショップの概要について」ご説明します。今回のワークショップは、第4期八王子市食育推進計画策定にあたり、初めて実施する取り組みとなっております。ワークショップの目的は、八王子市の食に関する現状や課題を、多様な立場の参加者と共有し、参加者同士で意見交換や取組アイデアを検討することで、計画の立案過程に参加していただくこととしています。ワークショップの参加者に関しては、食に関する民間企業や団体に属する方や、栄養士団体に所属する方、食に関心を持つ大学生、八王子市の職員で構成されております。なお、企業や団体に所属する方には、公募でご参加していただいております。大学生については、大学コンソーシアム八王子からの推薦を受けて参加をしていただいております。 続きまして、こちらのワークショップでは、参加メンバーを八王子市の食育推進計画の基本目標に沿って、三つのグループに分けております。グループ1のテーマは「三食、三色食べる」です。こちらのグループは「はちおうじ健康応援店」の関係者や、栄養士団体の方、大学生の方で構成されています。「望ましい食習慣を身につける」という目標の下、意見交換を進めていただきました。グループ2のテーマは、「選んで食べる」です。農家の方や食品企業の方、大学生で構成されています。「食の基本的な知識やスキルを養う」という目標の下、意見交換を進めていただきました。グループ3のテーマは、「楽しく食べる」です。こちらのグループは、子ども食堂の方や高齢者サロンの関係者、大学生の方で構成されています。「食を通じて家族・地域・自然とつながる」という目標の下、意見交換を進めていただきました。このようにそれぞれのグループが異なるテーマ・視点から八王子市の食育について検討してきました。 最後に各回のワークショップの概要についてご説明します。こちらのワークショップは全4回の開催を予定しています。第1回は「八王子市の課題を整理し、将来像を検討しよう」というテーマの下で実施をしました。八王子市の食に関する強みや弱みを出し合い、現状の課題を整理した上で、「こんな未来だったらいいな」という八王子の食の将来像について、皆さんで話し合っていたいただきました。第2回では、第1回で整理した課題を踏まえまして、その課題の解決方法について、必要な取組アイデアの検討を行いました。そして、本日が第3回となります。今回は食育推進会議の構成員の皆様に向けて、第2回でワークショップメンバーが考えた取組アイデアの内容を共有させていただきます。 第4回は、年明けに開催を予定しております。食育推進計画の素案を素にワークショップメンバー一人ひとりがどんな取組を実践できるか、意見を共有していただく予定となっております。本日はワークショップメンバーの方から、これまでに検討してきた取組アイデアの発表があります。構成員の皆様にはぜひご感想やご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
座長	続きまして、1グループからの発表になります。

ワークショップ メンバー	それでは、1グループの発表に移ります。1グループの進行役を務めましたので、私から第1回の報告を行いまして、第2回の報告は参加者の方にご報告いただきます。 ワークショップの報告に入る前に、本日お配りさせていただいている資料の見方について説明いたします。 本日お配りしている冊子の資料3の1ページをご覧ください。取組アイデアということで、表が記載されているかと思います。3ページをご覧ください。模造紙の写真が貼ってあるかと思いますが、ワークショップでは取り組みアイデアをこちらの写真にある模造紙に落とし込む形で実施してまいりました。こちらの模造紙の構成としては、横軸にすぐに取り組みそうなこと、中長期的に実現すべきことという時間軸を設けております。縦軸には取り組みの主体として、一番上が市民、中段が協働、一番下が行政といった主体別の区分けとしています。こちらの模造紙をベースに分類したものが1ページからの表となっております。黄色い付箋が市民主体、ピンクの表が協働、青い表が行政主体と整理されています。ピンクの表を見ていただくと、協働という枠組みの中に、事業者という項目にのみ丸印が付いているものがあるかと思います。こちらは協働の中でも基本的に、事業者主体で行う取組として出されたアイデアとなっております。 資料の4ページをご覧ください。具体例として、Cの「協働×すぐに取り組そうなこと」という表の3段目に「スーパーで八王子産の野菜などを売る」というアイデアが記載されており、事業者のみ「丸印」が付いているかと思います。こちらは事業者が主体として行なう取組のため、事業者にのみ「丸印」が付いています。その下の「知る」という枠組み部分に、「生産者が出向いて地域の農業について事業を行なう（出前事業）」という取組があるかと思います。こちらは行政と事業者が協働で実施する取組として案が出ておりますので、事業者と行政の二つに「丸印」が付く形となっております。 では、1グループの第1回ワークショップ結果についてご報告させていただきます。八王子市に関する強みや弱みなどの現状分析、将来像について話し合いを行いました。まず強みとしては、「都内で一番の農業生産高で自然が豊か」ということで、八王子市が誇る豊富な農地や食環境についての意見がありました。また、100名以上の栄養士が市の職員として在籍されているところも、八王子の大きな特徴であるという意見がありました。また都内有数の学園都市となっておりますので、大学生が多く在籍しており、「影響力がある」という強みや学校給食センターが市内には5か所あり、災害時の拠点にもなり得るということで、強みとして挙がりました。また、こちらは全国的な傾向かもしれませんが、コロナの影響や世帯構成の変化などによって、スーパーでお惣菜・お弁当などの中食を購入する人が増えたということも強みとして挙がりました。 一方で、弱みとしては、八王子市がベッドタウンということで、通勤に時間が掛かり、朝と夜の時間が取りにくいということで、食事を抜いている人が多く、若い世代の食への関心が低いことが挙げられました。また、若者の市外からの転入が多く、高校までの食育では足りないことや、「味の濃い食べ物を好む傾向がある」という弱みも挙がりました、 このような結果を踏まえて、将来像では、「子どもの頃から、意識しなくても自然と健康な食を楽しめるまち」を掲げ、1班の意見交換が行われました。
ワークショップ メンバー	続いて、第2回ワークショップ結果について説明します。 1つ目に、「行政主体×すぐに取り組めそうなこと」についてです。こちらは情報発信が鍵になるのではないかという意見にまとまりました。具体的には食育のプロモーション動画や、食に関する広報の作成と発信、ニーズに合わせたレシピの公開といった案が出ました。また、これらを学生と連携して周知していくことで、広く発信できると考えました。 2つ目に、「市民主体×すぐに取り組めそうなこと」についてです。まずは、朝食や3食食べることを子どもに伝える、また、「時短で作れる朝食レシピ」をSNSなどで共有・拡散するなど、「伝え

	ること」を軸とした案が多く出ました。 3つ目に、「スーパーなどの事業者主体×中期的に実現すべき取組」についてです。「翌日の朝食にそのまま出せるメニュー」や、「レンジで温める必要がないメニュー」、「朝食や3色を意識した惣菜の販売」など気軽に簡単に手に取れる朝食の販売が良いのではないかという意見にまともりました。また、朝食を食べることによる「付加価値」を付けるという案も出ました。 4つ目に、「行政主体×中期的に実現すべきこと」についてです。市内の小中学校や給食センターを利用しての食育教育を推進していくことや行政栄養士が市内の小中学校や給食センターで食育授業を行うことなど、情報発信を軸にした案が多く出ました。 このように1班では「情報発信」を主体とし、行政・事業者・学生・市民が協力していくことで、望ましい食習慣を身につけていくことができるのではないかと考えました。以上です。
座長	1グループの皆様、ありがとうございました。それではここで1班の発表について、皆様からご質問・ご意見をいただきたいと思います。
構成員	先ほど、中長期的に実現すべきことの中で、大学生が毎日朝食を食べると、全教科10点プラスもらえるなど、付加価値を付けるという項目があったのですが、学校の方に朝食を食べたかどうかを申告して、その教科について点数を付けていただくということでしょうか。
事務局	大学生自身が朝食を食べていない方が多いということで、大学生へのアプローチとして、「勉強」に結び付けた取組が必要ではないかと考えました。実際に学生が、記録を付けていただき、ある一定期間食べているのであれば、一部の教科でもそこが加点という形で捉えていただけると、より学生が朝食を食べる習慣につながるのではないかと考えた意見でした。
座長	大学の先生に実際に実現いただけるかは分かりませんが、学生の希望としてはということですね。
構成員	今のご提案ですが、学生にとっての10点配点はとても大きいものです。1点、2点でも必死に取りに行く現状なため、朝食を食べ、10点を得られるとなると、学生は必死に朝食を食べるだろうと思います。 授業の中で、前の日の食事を振り返るという内容を行っていますが、栄養に関する授業を受けているからか、比較的朝食を食べている学生は多い印象があります。良いご提案をいただいたので、大学生が実施してみようと思えるアイデアを私も出せたらと思いました。また、SNS等での情報発信ということで、若者は特にSNSから情報を主に得ていると思いますが、実際に現時点で八王子市でのSNSの活用はどのくらいあるのでしょうか。
事務局	八王子市でも広報紙だけでなく、SNS 等でも情報発信を行っています。特に学校給食課においてはインスタグラムのアカウントを作成しており、積極的に情報発信をしている状況です。発信している情報が全市民に届いているかという、まだ届き切れていない部分が多いかと思っています。今回のご意見でも情報発信が肝となっているため、積極的に発信し、見ていただけるように検討をしてけたらと思います。
構成員	特に大学生は「Instagram」や「X」などを主に使用しており、大学の授業時にアカウントの紹介は行えるため、連携できればと思います。
座長	給食に関しては、市長が今月のトピックとなる給食を紹介しているInstagramがあります。
事務局	実際に市長が給食を食べている様子を発信しています。
構成員	「三食、三色食べる」というテーマですが、食事バランスを示す「3色」の方をより啓発していくと良いなと思います。事業者が3色を意識した惣菜を販売したり、プロモーションを行ったりできるかと思いますが、もう少し具体性があるといいかなと考えました。

構成員	SNS等で情報発信を行うということをお話していたと思いますが、既に様々な情報がある中で、若者にはどんなものだと見てもらえるのかに関心があります。若者の興味を引くような情報でないと、やはり選んで見てもらうのは難しいと思います。
ワークショップ メンバー	私自身はインスタグラムをよく見ますが、インスタグラム内の「リール動画」と呼ばれる短い動画がたくさん流れてきます。「リール動画」は自分が興味のありそうなものが、お勧めとして流れてくるため、少しでも若者が興味のあるものに引っかかるような動画を作成して流すと、多くの若者に見てもらえるかと思います。また、「ストーリー」という機能がありますが、そこでも時々、広告が流れてくることがあります。「ストーリー」で広告を打ち出すことにより、目に留まるようにしていただけたら、印象的な広告を打ち出したりすることで、効果があるかと思います。 また、先ほどの「付加価値」の提案に関しては、実現に対していいものであると考えています。全教科10点プラスが難しいとしても、他に何か自身のプラスになるものを打ち出していくことにより、若者にも関心をもってもらえる事業になっていくのかなと考えています。
構成員	アプリのポイント等は若い人はそそられるのですか。また、広告は見るとですか。私は、広告を見るとかえって警戒してしまう印象があります。また、「広告」と表示していない広告もあるのですか。
ワークショップ メンバー	ポイントを貯めたことにより得られるものによるとと思います。広告は「ストーリー」機能と似た作りになっているので、よく見ないと広告と気付けないこともあるため、自然と目に留まると思います。
構成員	「三食、三色食べる」というフレーズですが、見れば字体的には分かるのですが、音声だけ聞いた時に同じことを2回言っているように捉えられると思いました。 情報発信ということで、現在情報があふれている社会の中でその情報が正確なのか、疑うことが多々あります。体に良いとかといった情報には興味を持つのですが、若い人や大学生の観点からすると、何を一番魅力的だと思うのでしょうか。若い方たちは健康な体を持っているため、次の世代にあがる時に手に入れたいものに関する情報なのか、今現在きれいになりたい、たくましくなりたいというようなことなのか、印象的な情報にすると、気になる方も多いかと思いました。まずはきっかけづくりが大切だと感じます。
座長	若い男性は、食に関してどのようなものに興味を持つのでしょうか。
ワークショップ メンバー	私自身は、料理が好きのため、美味しそうに見える料理や手軽に簡単に作れるレシピ動画が流れてくると、簡単なら作ってみようかなと興味をそそられて実行することがあります。
構成員	私は、1グループの中で、「子どもの頃から自然と健康な食を楽しめるまち」ということに共感をしました。所属している幼稚園では、健康的な食事を食べようということで、給食を始めました。本園では、卒園生と「デイキャンプ」を行う機会があったのですが、私が気になったのは、幼稚園時代のお子さんは皆さんしっかりと朝食を食べているのですが、デイキャンプで集まった卒園生は、ほとんどが朝食を食べていませんでした。幼児期から児童に変わる頃に、食に対する意識が家庭で薄くなってきていることを実感しました。デイキャンプではカレー作り体験から、お子さんがお家に帰ってカレーを作ったということを保護者から伺いました。このような体験を通して、食べることの楽しさや食に対して興味を持つことは、体や心にとっても良いことだということを、子どもの時から身につけることで、成長につれ、大きな影響が出てくるのではないかと感じました。子どもの頃から「3食食べる」ことをどのようにしたら楽しめるかとなった時に、「誰かと一緒に食べる」ことは、楽しさだけでなく食事の美味しさを感じることもつながると考えるので、私たちも現場でより伝えていきたいなと感じました。 また、「朝食を摂ると、大学生のテストの点数に10ポイント加点する」提案は難しいということですが、例えば、「朝の1限だけでも朝食を食べると1ポイントもらえる」ような制度を導入する

	と、朝頑張って起きられるかなと思います。具体的な案が出てきているので、ぜひ形を変えてでも実現していけたらいいなと思います。
座長	1グループの皆さん、ありがとうございます。次に、2グループの皆様、発表をお願いします。
ワークショップ メンバー	第1回の強み・弱み・将来像の概要についてお話をします。この班は「選んで食べる」というテーマで、「食の基本的な知識・スキルを養う」目標、地産地消や食と環境、災害時の食を含めた内容について意見交換を行いました。大学生の方や食品関連、農業関係の方にご参加をいただいています。強みについては、農業・畜産業が身近にあること、地場産が消費されているということ、直売所が八王子市内に多くあるといったご意見が挙がりました。さらに、環境、食の循環に絡めたご意見としては、農家と学生が関わって廃棄野菜の活用をしているということやタベスケHachiojiというフードロス削減Webサービスについて、お店と消費者が支援を行なっているといったご意見をいただきました。更に市内に給食施設が300施設以上あるとか、市内に飲食店が多いという意見をいただきました。八王子市の特性として、大学生の世代の方が多いということで、若いうちに食生活を見直すチャンスがあるということが意見として挙げられました。 一方で弱みについては、八王子産かどうか分かりにくい、八王子産の農産物を販売している場所がよく分からないといった情報発信がまだまだ足りないということがあげられました。1班でもそういったご意見がありましたが、2班でも同様の意見が挙げられました。一方で、現在情報化社会の中で、いろいろな情報が出ているので、どういった情報が正しいのかを判断するのが難しいという意見もいただきました。それと食品を加工している会社が少なかったり、豆腐を作るにあたり全部地場産にするというアイデアも挙げられましたが、八王子産の大豆が少ないということで、加工関係でまだ伸びしろがあるというご意見をいただきました。 通常このようなワークショップでは、弱みというのがかなり多く出て、強みがなかなか出てこないというパターンが多いのですが、今回は強みが大変多く挙がってきたのが八王子市の食のワークショップの特徴かなと捉えています。そうした八王子市の特徴、強みをより生かしていくために、八王子産を強化すること、同時に市内外にそういったところを知ってもらうこと、そして更に行動してもらえるように将来像として、八王子市における食の生産から消費までの循環、環境づくりに向けてストーリーを生み出し、みんなが楽しめるまちということで、今日も桑都物語という服をお召しになっている方もいますが、ストーリーというフレーズを使わせていただきました。
ワークショップ メンバー	2班は、「食の生産から消費までの循環、環境づくりに向けてストーリーを生み出す」の将来像に向けて話し合いました。グループから出た意見としては、まず実際に農業について知ってもらうことが大事なのではないかという意見が挙がり、具体的な取組例として、農業体験を行うという意見が挙がりました。親子で農業体験を行い、小さなお子様には収穫の喜びをまずは知ってもらい、大学生などに対しては、種まきから収穫まで、一連の作業について行ってもらえると、農業について知見を深めてもらうことができるのではないかと考えました。このような農業体験を通して、学生にも八王子の特産品や八王子にはどれだけの種類の農産物があるのかを知ってもらい、新たな特産品等を考えるようなことをしてみても面白いのではないかという意見が出ました。 また、「ブームを作る」という提案で、若い世代はSNS等の利用が多いため、実際に流行している食品を使い、ブームを作ってみても面白いのではないかという意見も出ました。例えば、八王子産の農産物とコラボをすることです。八王子では特産品としてパッションフルーツなどを作っています。その加工品を使ったコラボ商品の開発を行うといった意見が挙がりました。また、現在市内の飲食店では、玉ねぎを使用した「八王子ナポリタン」や「八王子ラーメン」といった八王子ならではのグルメが販売されていますが、実際にはそれらに使用される玉ねぎは北海道産

	が多いという状況です。そこで、「八王子ラーメン」には八王子産の玉ねぎを使う等、食材のこだわりにも工夫すると、より八王子産の農業や農産物に触れる機会が増えて良いのではないかという意見がありました。 また、八王子市は都内で一番の生産高であり、まだまだ豊かな農地が残っている地域です。実際に自分たちの住んでいる身近にどのような農業があるのかを知ってもらうために、「農産物マップ」のようなものを作成し、市内で生産されている野菜や牧場、養鶏の所在地などを知ってもらうといいのではないかという話がありました。 また、八王子産の野菜があるということを知っても、実際にそれがどこで買えるのかということが分からなければ買えないため、八王子産の野菜の特産品を扱っているお店には、ロゴを掲げるという案が出ました。市内には大学も多くあるため、学生にロゴを作成してもらうという案が出ました。2 班では、これらの案により、八王子の農業や特産物を周知する取り組みが進められて行けば良いのではないかという話になりました。
座長	ありがとうございました。それではここで 2 班の発表について、皆様からご質問・ご意見をいただきたいと思います。
構成員	質問と提案をさせていただきます。昨年の夏にブルーベリーの収穫体験に参加いたしました。体験では、収穫したブルーベリーのうち1箱は持ち帰り用、もう1箱は農家に提供する形となっており、提供分はフローゼン加工され、八王子市内の学校給食に活用されるとのことでした。暑い中での収穫作業を通じて、農業の大変さを改めて実感いたしました。市民の方々の農業体験に関してよく聞くのは、大学生がアルバイトとして農業に関わるケースです。しかしながら、現状では大学ごとに農業アルバイトの募集などの取り組みは行われていないように思われますが、いかがでしょうか。そこで一つのアイデアとして、例えば、大学ごとに特定の農産物を割り当て、収穫期に学生が集中してアルバイトに参加するような仕組みができれば、地域と大学の連携による魅力的なストーリーが生まれ、農業への関心や参加の促進につながるのではないかと考えております。このような農業アルバイトの紹介やマッチングは、大学ごとに既に実施されているのか、お聞きしたいです。
構成員	農業のアルバイトについては聞いたことがありませんが、大学のゼミの中でも食育活動に取り組んでいるところがあり、農業体験を希望する声もあるようです。 農業体験がアルバイトとして提供されれば、学生にとって有意義な機会になると考えております。
座長	斬新なアイデアを出していただきありがとうございます。
構成員	地産地消は、カーボンフットプリントや地球温暖化防止の観点からも、流通過程での二酸化炭素排出量が少なく、非常に好ましい取組だと考えております。 また、廃棄野菜の活用に関連して、八王子市では段ボールコンポストの取組があるため、広く周知し、さらに活用が進むことを期待しております。
構成員	農家と学生が連携し、廃棄野菜を活用されていると強みに記載されていますが、具体的にどのようなことをされているのでしょうか。
事務局	農家と学生が連携し、廃棄野菜が活用されているというご意見を出された参加者の方が本日欠席されているため、後日回答させていただきます。
構成員	八王子産の野菜を買いたくても、販売場所が限られており、車がないと行きづらいです。地域のスーパーに地場野菜コーナーがあると、より購入しやすくなると思います。 また、私も家庭菜園を始めましたが、暑い中での農作業は過酷で、形の悪い野菜が多く収穫されます。農家の場合となると、出荷できないと聞きますが、味に問題はなく、埼玉県の道の駅でも形は不揃いでも美味しい野菜が安く販売されていました。「食材の形が悪くても味は変

	わらない」ことを知っていただき、規格外野菜の活用を進めることで、食品ロスの削減につながると考えます。
構成員	農業体験の提案は有効だと思います。アルバイトやボランティアとして学生が参加することで、食の大切さを学ぶ機会になります。 また、大学の SNS を活用すれば、農業体験の様子を広く発信でき、特にアスリート学生の発信力は高いため、市単独よりも大学との協働が効果的だと考えます。 さらに、余った食品の配付や、安価・無料での提供は学生の支援にもつながります。朝食レシピと合わせてInstagramで発信するなど、学生の参加意欲も高まると考えます。大学内で月1回の地場野菜販売も有効な取組だと考えます。
構成員	八王子市は東京の中でも農地が多く、学生との連携はワークショップ等で進められていますが、上の世代との連携には課題があると考えます。そこで、農業巡りや収穫体験などを企画し、地域で発信することで連携強化につながると考えます。 また、給食センターを活用したツアーの企画も有効であると思います。段ボールコンポストについては、地域の学校への設置を打診中であり、子どもたちが地域食堂や体験を通じて食の知識を深められる場づくりが重要だと感じています。
座長	それでは、2グループについては以上とさせていただきます。ありがとうございました。続いて、3グループの皆様の発表をお願いします。
ワークショップ メンバー	3班は「楽しく食べる」をテーマに、基本目標「食を通じて家族・地域・自然とつながる」に沿って意見交換を行いました。食に関して、八王子市の「強み」に関する意見が多く出され、具体的には、健康に配慮した「はちおうじ健康応援店」との協力体制が整っていること、不登校児童に給食を提供し居場所を創出している取組があること、八王子市では食や健康に関するイベントが多数開催されており参加機会が豊富であることが挙げられました。また、小中学校で食育教育が積極的に実施されている点、高齢者が活発に活動している点、さらに道の駅滝山の立地により地産地消のアクセスが比較的容易であることも強みとして指摘されました。 弱みとしては、学校教育で食育に力を入れても、就職を機に市外へ転出するため、長期的な事業成果の把握が難しいという意見がありました。また、大学での食育教育はあまり実施されておらず、小中学校と比較すると大学での取組が弱いという指摘もありました。 そして3班の将来像としては、「若い世代から高齢世代まで食事に困らない八王子」、「子どもから高齢者まで全世代が食でつながるまち」という方向性が示されました。
ワークショップ メンバー	3班では、大きく3つの観点からアイデアを出しました。そのうち1つ目は地産地消に関するもので、通常は「八王子産のものを食べる」という消費面に注目しがちですが、今回の提案では、地産地消の流れ自体を体験できるツアーとして企画するというアイデアが出されました。先ほど委員からもアイデアがありましたが、農業のボランティアやアルバイトとして収穫するところから、消費のところまで一連の流れをツアーとして組むといったアイデアです。 農家の生産から物流、加工、消費までの流れを一つの体験型ツアーとして企画するアイデアが出されました。ただし、農家への負担が大きいため、学生のインターンシップなどを活用し、農家や物流、販売店を巻き込みながらツアーを構築する仕組みが望ましいのではないかと意見がありました。また、特に大学生の参画を促すため、インターンシップとして食育活動を位置づけ、単位取得につなげる仕組みを導入するというアイデアが出されました。学業成績に結び付けることで、食育に直接関心がない学生でも参加意欲を高められるのではないかと意見です。 2つ目は情報発信の観点です。八王子市では食育活動が多様に行われていますが、市民への周知が不足しているという課題が挙がりました。効果的な情報発信として、子ども食堂では

	参加者による口コミを活用する案が出されました。また、地場野菜の販売場所や郷土料理の情報が分かりにくいと、行政の広報ツールや市営バス広告など、市のリソースを活用して情報を届ける仕組みが必要との意見がありました。 最後の観点はシステム開発で、食育を楽しく実践できる仕組みとして食育アプリの開発案が出されました。このアプリは、八王子市の健康応援店認定制度と連動し、健康応援店の利用や健康レシピ作成、食育活動でポイントを付与し、地場野菜の購入や飲食時にポイントを活用できる仕組みを想定しています。 以上、3つの観点からアイデアが出されました。
座長	発表ありがとうございました。それでは、3グループの発表についてご質問・ご意見のある方はお願いします。
構成員	食育アプリの開発は有効な取組と考えます。高齢者向けの「てくポ」アプリのように、ポイント付与で行動を促す仕組みは効果的であり、その発想を基に、子どもから大人まで利用できるアプリがあると良いと思いました。例えば、野菜の色をそろえて食べるとポイントが付与されるなど、子どもが楽しみながら食育に取り組める工夫です。貯まったポイントははちおうじ健康応援店での朝食無料提供などに活用できるようにしたりすることで、朝食不足の課題解決にもつながると期待されます。
構成員	「楽しく食べる」というテーマは、「みんなで食べる・作る・知ること」を含むと考えられます。地産地消ツアーなど、八王子市内の多様な食材を知る機会があれば参加したいと思いました。また、以前、病院の駐車場で地場野菜販売がされている所を拝見し、市内の農家さんが安価で野菜を販売し、短時間で完売していました。野菜もとても美味しく、また、普段外出しない人も購入するなど、食を通じた交流の効果が見られました。こうした体験は食の魅力を実感できるため、今後もさまざまな場所で継続的に実施されると良いなと思いました。
構成員	以前、自身のサマースクールのお料理教室で大学芋を作る際、八王子産の芋の入手先が分からず、やむを得ずスーパーで購入しました。後に小学校に野菜販売車が来ていたことを知り、販売場所や日時の情報が一元的に発信されていれば便利で有効だと感じました。食に関心のある人にとって、こうした情報をまとめて提供する仕組みの整備が望まれます。
構成員	はちおうじ健康応援店に登録されている飲食店で喫煙可能な店舗があり、健康を推進する制度として適切なのか疑問を感じました。現状では申請すれば容易に認定される印象があるため、認定基準をより厳しくする必要があると考えます。
事務局	現在、登録項目に「禁煙」は含まれていませんが、食だけでなく幅広い健康の視点を取り入れるため、今後は禁煙も項目に加えられるよう事務局で検討していきます。
構成員	大学での食育教育が少ないことが課題として挙げられていますが、実際にその傾向を感じています。地産地消や農業体験など時間や労力を要する活動だけでなく、大学生には短時間の講義やレクチャーでも行動変容を促す効果があります。例えば、大学所属の栄養士が他大学でセミナーを行うことも、十分に食育につながると考えられます。
座長	そのような大学間で教授が違う大学に行き、講義やゼミを行うことはよくあるのですか。
構成員	私自身は経験はありませんが、栄養に関する授業を受けた学生が、初めてバランスの良い食事を理解し、行動や体つきに変化があったという話を聞きました。大学生は1回の授業でも大きな影響を受けるため、大学所属の栄養士による出張セミナーや、八王子市が各大学に向けて若者向けセミナーを実施するなどの取組は有効だと考えられます。
座長	皆様、様々なご意見をたくさんいただきましてありがとうございました。 本日予定しておりました議事、報告は終了いたしました。議事進行に御協力いただきありがと

	うございました。それでは、進行を事務局に戻します。
健康づくり推進課長	次第の4つ目、その他に移ります。構成員の皆様から、特に御意見、御連絡事項等がございますか。
構成員	テレビ番組で、持病や低栄養の人が熱中症になりやすいという調査結果が紹介されていました。特に高齢者では、たんぱく質の摂取不足が影響するとのこと。熱中症対策として、栄養面にも配慮した教育の推進が重要だと感じています。
健康づくり推進課長	今年度は、テレビや行政から熱中症に関する情報発信が多く、保健所でも子ども・高齢者・障害者への注意喚起が行われています。こうした取組を、食育の視点からも捉えることが重要だと感じました。貴重なご意見をありがとうございます。 それでは、事務局より連絡事項がありますので、よろしくお願いいたします。
事務局	本日、構成員の皆様にお配りしているご意見シートについては、追加でご意見がありましたら、ご記入いただき、9月4日(木)までに、下記に記載のメールアドレスまたは FAX でご提出くださいますようお願いいたします。また、次回の第4回食育推進会議は、10月9日(木)14時30分からを予定しております。また、第4回ワークショップは令和8年1月30日(金)の18時30分からを予定しています。本日を含め、これまでにいただいたご意見を踏まえて作成した計画の素案について、次回ご提示いたしますので、ぜひご参加をいただきますようお願いいたします。
健康づくり推進課長	本日は、お忙しい中ご出席をいただき、誠にありがとうございました。 皆様にいただいたご意見を踏まえ、第4期食育推進計画の策定作業を進めて参ります。よろしくお願いいたします。 以上をもちまして、令和7年度第3回食育推進会議を閉会いたします。